

令和 3 年 12 月 24 日

(2021年)

保護者の皆さま

吹田市立青山台中学校

校長 開 康 壽

## 令和 3 年度 全国学力・学習状況調査の分析について

寒冷の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年度 3 年生を対象として「令和 3 年度全国学力・学習状況調査」が実施され、9 月上旬に各個人の結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施された調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られます。それゆえ、測定されたものは学力の一部で、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえながら、調査によって得られた本校における課題の一部を分析し、様々な側面からその改善に取り組むことが、調査本来のねらいであると考えられます。

対象となった 3 年生には、一層きめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として、学力向上につながる課題に応じた具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果についてご理解をいただき、今後の家庭学習の指針として、ご活用いただきますようお願いいたします。

## 1 教科に関する調査結果の分析

### ●国語《概要》

生徒の平均正答率は全ての観点において全国・府平均を上回っていることから、出題された学習内容を概ね理解していると考えられる。しかしながら、全国的な傾向ではあるが、「読むこと」に関する設問や、記述式で解答する設問における正答率が低いことは課題として挙げられる。

### ●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ①「国語への関心・意欲・態度」については、全ての設問において正答率が全国・府平均を上回り、無回答率も低い結果であった。
- ②「話すこと・聞くこと」に関しては、全ての設問において正答率が全国・府平均を上回り、無回答率も低い結果であった。
- ③「書くこと」に関しても、全ての設問において正答率が全国・府平均を上回ったが、「書いた文章を読み返し、語句や分の使い方、段落相互の関係に注意して書く」という趣旨の設問では全国・府平均を上回っているとはいえ低い正答率となった。また「書いた文章を互いに読み合い、文章校正の工夫を考える」という趣旨の記述式の設問における無回答率が全国・府平均を上回っていたことと合わせると、完成された文章には慣れているが、下書きを修正して、文章をブラッシュアップすることには慣れていないことがうかがえる。
- ④「読むこと」についても、全体としては正答率が全国・府平均を上回っている結果であるが、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」という趣旨の設問における平均正答率は全国・府平均を下回っているため、自身の考えを持ちながら文章を読むことが必要である。
- ⑤「伝統的な言語の文化と国語の特質に関する事項」に関しては、すべての設問において正答率で全国・府平均を上回り、無回答率も下回っていた。

国語全般において、文章を読んで理解し、それに対する自身の考えを持ち、それを文章で表現し、書いた文章を見直して修正するという流れを習得する必要があると考えられる。次の数学でも課題となっているが、読解力、表現力の向上が課題であることがうかがえる。

国語への関心も高く、知識の習得も進んでいることが成果として挙げられるため、それらを足掛かりとして、不足分を補えるよう工夫した教育活動を展開する。

## ●数学《概要》

全ての観点において全国・府平均を上回っている。しかしながら、全国平均と同様に本校でも記述式の問題形式に関する設問の正答率が低いため、重点的に取り組む必要があると考えられる。

## ●数学《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ①「数と式」の項目においては正答率が全国・府平均を大きく上回っており、全体として理解ができていると判断できる。ただ、「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」という出題趣旨の問題では、全国・府平均を正答率で上回っているといえ、本校の正答率も決して高いわけでない。
- ②「図形」と「関数」の項目に関しても正答率は全国・府平均を大きく上回っている。しかしながら、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に読み取ることができる」及び「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる」という出題趣旨の問題では、多くの生徒が正解を導き出せていない。
- ③「資料の活用」の項目に関しての正答率は全国・府平均を上回っている。ただし、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」という出題趣旨の問題では、非常に多くの生徒が正解を導き出せていない。

数学全般の課題として考えられるのは、記述式の問題形式に対する正答率が低く無解答率が高い傾向にある点である。全国・府平均でも同じ傾向にあるが本校も同じような結果となっている。また、無回答率の高い設問では、記述式に加え、A4用紙4ページ分にわたる長文の出題形式によるものもあり、これも全国的な傾向ではあるが、数学的な読解力・表現力に課題があるのは明らかである。ただし、すべての設問で、無解答率が全国・府平均を下回っていて、本校生の課題に対する意欲は非常に高いと評価できる。

本校における2,3年生で習熟度別少人数授業において、可能な限り個別生徒の理解度に合わせた授業を展開している中、積極的に授業に臨む生徒が多くなってきた点と、自学自習の時間を適切に設け、問題集等の課題を適宜課すことで、保護者の皆様のご理解・ご協力と相まって家庭学習の定着が浸透してきた点が、成果として挙げられる。

## 2 生活習慣や学習、学校生活及び自分自身のこと等に関する質問紙調査の傾向

### 【生活習慣や学習について】

- ・朝食の摂取、起床と就寝時間は定まっているとの設問で「している」「どちらかといえば、している」という肯定的な回答の割合が高く、各ご家庭での協力のおかげで規則正しい生活は定着している。
- ・学校の授業以外での学習時間の確保については、全国・府平均より上回っているが、計画を立てて勉強しているかとの問いには否定的な回答が多く、自主的・自発的な学習の必要性が浮き彫りになっている。
- ・学校での出来事を家庭で話す割合も約80%という結果で、各ご家庭における保護者の皆さまの、日頃のコミュニケーション環境づくりのおかげと感謝申し上げます。
- ・「新聞を読んでいるか」との質問には肯定的な回答が多いが、「どれくらい読書をしているか」との質問には肯定的な回答が全国・府平均を下回っており、このことが読解力を必要とする問題の正答率の低さにつながっている可能性がある。

### 【学校生活や自分自身について】

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」「友達と協力するのは楽しいと思うか」の質問に「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が全国・府平均を大きく上回る結果であった。他人の存在を認め、協力することに価値を見いだせる、人権感覚の豊かな3年生であると考えられる。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の割合は昨年度以前から一転して、全国・府平均を上回った。コロナ禍の厳しい状況でも未来に展望を持つようとする前向きな姿が見られる。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」では「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の割合が全国・府平均を上回っただけでなく、100%に近い3年生が肯定的回答をしており、本校での取り組みのみならず、各ご家庭でのご指導のおかげと感謝申し上げます。

## 3 今後の取り組み

本校の学校教育目標「将来を自分らしく立派に生きていく大人としての中学生の育成」を達成すべく、今回の調査結果を分析し、今後の教育活動に活かしてまいります。

各教科では、自分の考えを発表したり、クラスや班の中で意見交換をしたりするなどの授業形態も多くなり、他者の意見に耳を傾け、自身の考えを発表できることにつながってきていると考えています。

また、1人1台のタブレットパソコンの導入により、ICTを活用した生徒の興味・関心を高める授業も展開されているが、健康面での課題も指摘される中、各種研究成果も参考にしながら、効果的に進めていきたいと考えます。

そして、全国的に読解力の低下が叫ばれる中、本校でも例外ではなく、各教科をはじめ、種々の学校教育活動を通して読解力の向上を目指します。

最後になりましたが、保護者の皆様には引き続き本校の教育活動にご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。